

6章 復旧の状況

被災後全住民の避難指示が出されたため、復旧は雪解けを待って平成 17 年 4 月から開始された。復旧作業は、長岡市水道局に設置された「山古志地域水道復旧プロジェクトチーム」を中心に進められている。

この復旧プロジェクトチームは、(社)日本水道協会中部地方支部に属する 5 市(阿賀野市、高岡市、豊橋市、名古屋市、新潟市)からの派遣職員 5 名と旧山古志村職員 1 名で構成され専任で復旧のための作業にあたっている。

6.1 復旧プロジェクトチームについて

(1) 被災市町村への職員派遣の経緯

新潟県中越地震により大きな被害を受けた市町村長は、水道施設、下水道施設、農地、道路、河川及び公園などの災害復旧に必要な技術職員を 1 年間派遣するよう新潟県に要請した。新潟県は、この要請を受け、平成 17 年 1 月 26 日に新潟県市長会を通じて県内の地震の被害を受けなかった市長へ照会を行うとともに、全国市長会に技術職員の派遣を要請した。このうち、水道については、旧山古志村の水道復旧に必要な職員 5 名が要請され、日本水道協会新潟県支部で担当することとなった。新潟県支部長である新潟市水道局は、県下の事業体に職員派遣の意向を打診するとともに、中部地方支部(地方支部長都市：名古屋市)に要請を行った。

中部地方支部では、この要請を受け、名古屋市、豊橋市、高岡市、阿賀野市、新潟市から 5 名の中堅クラスの技術職員を 1 年間派遣することとなった。

(2) 山古志地域水道復旧プロジェクトチームの設置

平成 17 年 4 月 1 日に、山古志村は長岡市と合併し、各都市から派遣された職員 5 名と旧山古志村水道担当職員 1 名を含めた 6 人による「山古志地域水道復旧プロジェクトチーム」が、長岡市水道局工務課に設置された。

このプロジェクトチームは、復旧計画の策定から作業を始め、現在、水道施設の復旧に取り組んでいる。

6.2 復旧計画について

復旧プロジェクトチームによる復旧計画は、次のような考え方により策定されている。

山古志村簡易水道については、送水管路が樹枝状に配管されているため、上流側から順次復旧が原則となる。しかし、第 4・7 送水ラインで送水される末端付近の種苧原配水区及び小松倉配水区は、集落の被害が比較的軽微であり、途中の第 3 送水ラインは壊滅的な被害を受けているため、この被害状況を考慮した復旧計画が立案されている。

(1) 第1段階（降雪期を除く平成17年度）

第1段階の復旧は、平成17年度降雪期前までとし、以下の送水ライン及び地区の復旧を予定している。

- ① 第1・2送水ライン及び竹沢高区・低区は、調整池の水を使って上流より復旧を進めていく。
- ② 種芋原配水区及び小松倉配水区は、それぞれ臨時水源の水を使って復旧を実施する。ただし、道路が原形をとどめていない部分は仮設管を布設して、道路復旧に併せて本布設する。
- ③ 梶金地区内の国道291号（国土交通省が直轄で復旧工事中）は平成17年度に復旧完了予定であるため、この復旧工事に合わせて、竹沢高区と梶金地区を仮設配管で連絡し、木籠・梶金地区に給水する。
- ④ 虫亀簡水については、原則どおり上流側から復旧を実施していく。

(2) 第2段階（降雪期を除く平成18年度）

第2段階は平成18年度降雪期前までとし、本復旧を予定している。

- ① 壊滅的な被害を受けている第3送水ラインについては、原形復旧が困難であるので、羽黒トンネル経由にルート変更を行う。
- ② 第4・5・6・7送水ラインの復旧は、第3送水ラインの開通に合わせて実施する。その後、池谷・大久保、檜木、木籠・梶金の各配水区で本復旧を実施する。

(3) 早期復旧に向けての課題

平成18年度以降の復旧については、道路崩壊に伴う管路流出の被害を受けている路線が多く（図6.1参照）、またこのような路線は大規模な県道改修を必要とする区間が含まれているため、道路復旧と水道復旧の調整が必要となり、以下の課題が想定されている。

①第3送水ラインの代替ルート＜羽黒トンネル＞

第3送水ラインの市道部は、壊滅的な被害を受けているため、代替ルートとして、羽黒トンネル内を占用する計画である。

しかし、羽黒トンネル改良工事の施工期間が平成17年度～平成18年度で予定されており、現時点での占用開始可能時期は平成19年以降になるため、既設車道トンネルへの仮設管の布設を検討する必要がある。

②第4送水ライン＜栃尾山古志線＞

第4送水ラインは、寺野地区において河道閉塞や大規模な崩落により管路が寸断されている。当該区間はバイパスによる復旧が検討されており、未確定ながら

ルートが大幅に変わって現状よりも距離が長くなり、さらに複数の橋梁の架設が予定されている。

したがって、平成 18 年度中の施工が非常に難しい状況であることに加え、管路布設延長の増大、複数箇所の橋梁添架などにより、復旧計画を策定できず復旧の遅れが懸念される。

③第 7 送水ラインと木籠・梶金配水区<柏崎高浜堀之内線>

第 7 送水ラインと木籠・梶金配水区では、河道閉塞や大規模な崩落により管路が寸断されている。当該区間の復旧は、道路の線形や工法等の復旧方法が明らかになっていないが、被害状況から考えると、復旧時期の遅れが懸念される。

表 6.1 各配水区の復旧見通し

配水区名	集落名	仮復旧時期 ^{※1}	本復旧時期 ^{※2}
竹沢高区配水区	竹沢、油夫、桂谷	平成 17 年 9 月	平成 18 年 9 月
竹沢低区配水区	間内平、菖蒲、山中	平成 17 年 9 月	平成 18 年 9 月
池谷・大久保配水区	池谷、大久保	—	平成 18 年 9 月
種芋原配水区	種芋原	平成 17 年 9 月	平成 18 年 9 月
木箆・梶金配水区	木箆、梶金	—	平成 18 年 9 月
榑木配水区	榑木	—	平成 18 年 9 月
小松倉配水区	小松倉	平成 17 年 9 月	平成 18 年 9 月
虫亀配水区	虫亀	平成 17 年 9 月	平成 18 年 9 月

※1：8月13日から虫亀配水区は全域、種芋原配水区と小松倉配水区は臨時水源により給水を開始し、給水戸数で示す復旧率は53.0%

9月16日には、油夫集落を除き竹沢配水区に給水開始し、復旧率は77.4%

※2：なお、道路復旧の進捗状況により、水道管路の復旧が遅れる場合も想定される。

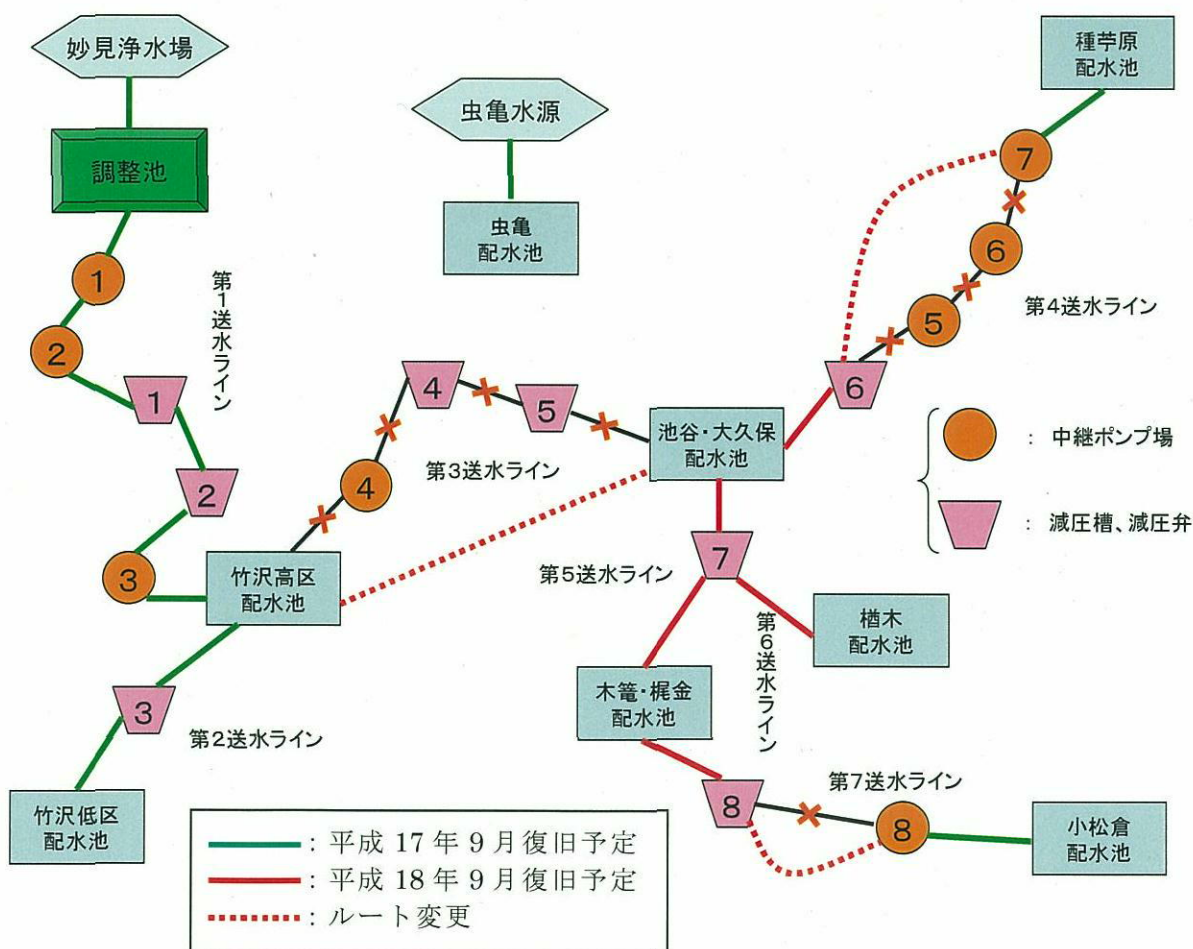


図 6.1 復旧計画